



ミニ・ディスクロージャー誌

平成20年3月期

営業のご報告

KIYO
FINANCIAL GROUP

株式会社紀陽ホールディングス

株式会社 紀陽銀行



目次

1 ごあいさつ

2 紀陽銀行 中期経営計画 「ハート&ブレイン・アクションプラン」について

4 決算ハイライト

10 地域の皆さまとともに

16 地域・社会貢献活動への取り組み

17 ネットワーク

18 財務諸表

21 株式情報

株式会社 紀陽ホールディングス

設 立 日 平成18年2月1日

所在地 和歌山市本町1丁目35番地

資 本 金 583億5,000万円

事業の内容 銀行等子会社の経営管理、ならびにそれらに附随する業務

上場証券取引所 東証・大証一部

株式会社 紀陽銀行

設 立 日 明治28年5月2日

所在地 和歌山市本町1丁目35番地

資 本 金 800億9,600万円

店 舗 数 104店（和歌山県67ヵ店、大阪府34ヵ店）
（奈良県2ヵ店、東京都1ヵ店）

従 業 員 数 1,972名(出向者を除く)

※平成20年3月31日現在

※本冊子に記載している計数は、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。



皆様には平素より紀陽銀行をはじめ紀陽フィナンシャルグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

おかげさまで、平成18年10月にスタートしました第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」もこれまでのところ順調に推移しており、これもひとえに皆様のご支援とご愛顧の賜物であり、深く御礼申し上げます。

平成20年3月期決算につきましては、堅調な地元経済に支えられ、預金・貸出金の業容面は順調に推移し、紀陽ホールディングス連結、紀陽銀行単体ともに、好業績を残すことができました。

さて、グループの中核である紀陽銀行では理想とする銀行像「お客さまから選ばれ続ける銀行」を実現するために、顧客接点の強化策を進めております。

昨年度は、貸出業務特化型店舗として、大阪市内に「大阪東支店」と「大阪北支店」の2カ店を開設いたしました。また個人取引特化型店舗「紀陽ハートフルプラザ」として和歌山市内に「西脇支店」、泉大津市内に「泉大津支店」を開設し、お客さまの利便性向上に努めております。今後も更に店舗網の充実を図る計画であり、併せて既存の支店においても、お客さまの多様な資産運用ニーズにお応えするために、資産運用アドバイザーを配置する等、顧客サービスの充実を図って参ります。

また、皆様からの信頼を裏切ることのないように、グループ全体の法令等遵守体制の更なる強化を図るとともに、地域社会に生きる企業として、「地域の発展なくして当社の発展なし」の考えの下、一層の地域経済の活性化に貢献して参ります。その一環として本年2月には和歌山県と地域活性化に向けた包括的な連携協力に関する協定を締結しており、4月には人的交流を開始したほか、今後もあらゆる分野での地域活性化に向けた事業で協力して参ります。

日本経済は原油高や株価低迷等の影響により、踊り場に差し掛かっております。また金融業界におきましても、ゆうちょ銀行の発足、異業種間の提携等によりますます競争が激化してきておりますが、当社グループ全体でお客さまの多様なニーズにお応えすることで、第1次中期経営計画の終期である平成21年3月期の目標達成に向けて、一層の努力を重ねて参ります。

今後も、引き続き変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月

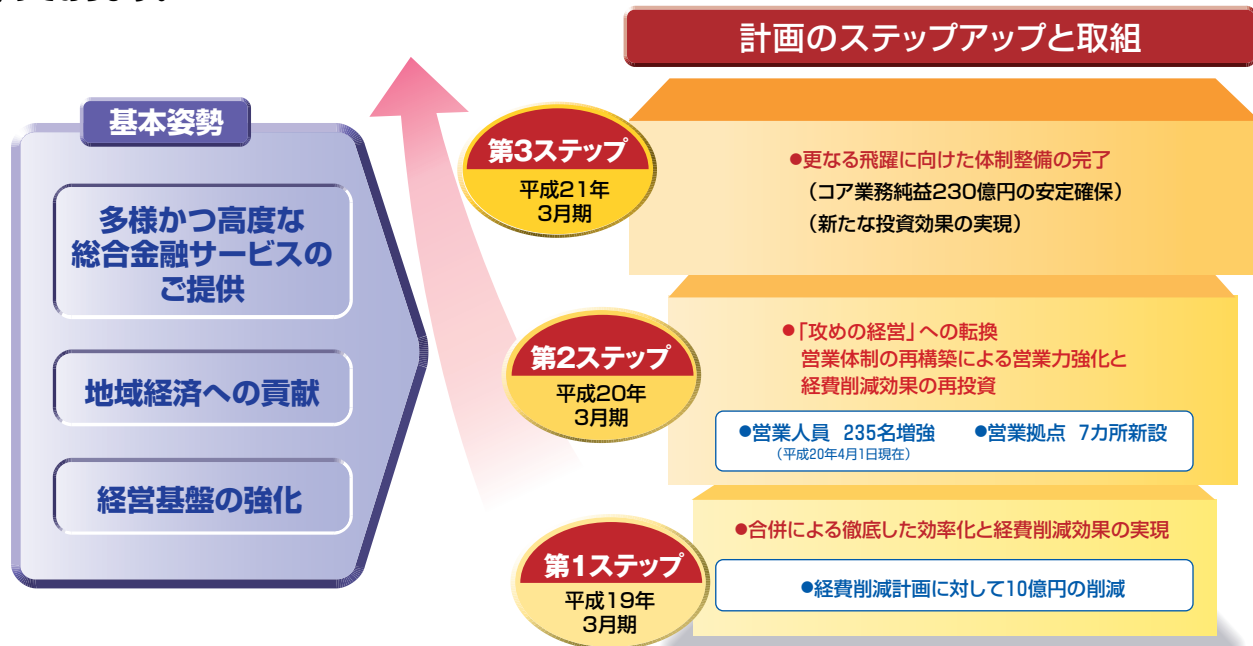


取締役社長

片山博臣

紀陽銀行 中期経営計画 「ハート&ブレイン・アクションプラン」について

最終年度を迎えた第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」では、「お客さまから選ばれ続ける銀行」を目指し、グループの総力を結集し、お客さまの多様なニーズにお応えし総合的な金融サービスのご提供に努めております。



KIYO 紀陽フィナンシャルグループ
FINANCIAL GROUP

株式会社 紀陽ホールディングス
金融持株会社

株式会社 紀陽銀行
銀行業

紀陽ビジネスサービス株式会社
事務代行等

阪和信用保証株式会社
信用保証業務

紀陽リース・キャピタル株式会社
リース業務・株式公開支援・コンサルティング

紀陽ビジネスファイナンス株式会社
融資業務

株式会社紀陽カード
クレジットカード業務・JCB/VISA

株式会社紀陽カードディーシー
クレジットカード業務・DC

和歌山銀カード株式会社
クレジットカード業務・UFJニコス

紀陽情報システム株式会社
ソフトウェア開発業務等

中期経営計画の進捗状況

地域のお客さまから確固たる信頼を頂戴するために、営業拠点や営業人員を増強し、よりご満足いただけるサービスや商品のご提供に取り組んでおります。

こうした取り組みを通じ、中期経営計画において目標とする経営指標の達成を目指しておりますが、平成20年3月末までの進捗状況は以下のとおりであります。

紀陽銀行単体 単位:億円

目標項目		平成19年3月期 実績*
規 模	預金残高(譲渡性預金含む)(末残)	30,935
	貸出金残高(末残)	21,114
	うちローン残高	6,813
	預かり資産残高(末残)	3,448
	うち投資信託残高	1,778
収益性	コア業務純益	183
	コア業務純益ROA(コア業務純益/総資産)	0.56%
効率性	OHR(経費/業務粗利益)	67.41%
健全性	不良債権比率	6.19%

*旧和歌山銀行との二行合算ベース

平成20年3月期 実績	前期比
32,421	1,486
22,725	1,611
7,340	527
3,821	373
1,761	△17
221	38
0.66%	0.10%
61.64%	△5.77%
5.09%	△1.10%

平成21年3月期 計画
3兆3,000億円以上
2兆2,000億円以上
7,800億円以上
5,400億円以上
2,600億円以上
230億円以上
0.68%以上
60%未満
4%台

紀陽ホールディングス連結 単位:億円

目標項目		平成19年3月期 実績
収益性	当期純利益	81
健全性	自己資本比率	11.58%
	TierI比率	8.51%
	繰延税金資産対TierI比率	22.00%

平成20年3月期 実績	前期比
133	52
10.65%	△0.93%
7.76%	△0.75%
24.65%	2.65%

平成21年3月期 計画
100億円以上
11%以上
8%以上
10%台



コア業務純益とは

預金・貸出金・有価証券などの利息収支である「資金利益」、各種手数料などの収支である「役務取引等利益」、外国為替・債券の売買損益などの収支である「その他業務利益」を合計した「業務粗利益」から「経費」と「一般貸倒引当金繰入額」を差し引いたものが「業務純益」です。さらに、「業務純益」から一般貸倒引当金繰入額、債券関係損益の影響を控除したものが「コア業務純益」となります。銀行の本来業務での収益を表す指標です。

OHRとは

業務粗利益に占める経費の割合を表し、効率性を示す指標のひとつです。

自己資本比率・TierI比率とは

自己資本比率は、信用リスクアセット（総資産のうち貸倒の可能性のある資産）やオペレーショナル・リスク相当額（事務ミスなどから生じる損失に対して備えるべき額など）に対する資本金などの自己資本の割合を示します。

TierIは、資本金や利益剰余金など自己資本の中核を占めるもので、リスクアセットに対する割合は、健全性を示す指標のひとつです。

繰延税金資産とは

企業会計上の利益と課税所得が一致しない場合に生じるもので、企業会計上、将来負担すべき税負担を当期に前払いしたと考え資産計上するものです。

紀陽ホールディングス連結

—— 経常利益は前期比29%、当期純利益は前期比63%増加しました ——

平成20年3月期の紀陽ホールディングス連結の業績は、グループ企業を中心である紀陽銀行の業績が順調に推移し、経常利益が前期比24億円増加し106億円、当期純利益も同51億円増加し133億円となり、当期純利益で過去最高益を更新いたしました。

紀陽銀行単体

業務純益は前期比21億円増加の216億円となりました。

また、当期純利益は、前期比4億円増の88億円となりました。

	平成19年3月期	平成20年3月期	前期比
業務粗利益	553	590	37
経費(△)	373	364	△ 9
一般貸倒引当金繰入額(△)	△ 14	10	24
業務純益	195	216	21
コア業務純益	183	221	38
臨時損益	△ 101	△ 99	2
うち不良債権処理額(△)	110	92	△ 18
経常利益	93	116	23
特別損益	12	△ 33	△ 45
うち償却債権取立益	41	26	△ 15
当期純利益	84	88	4

単位:億円

※平成19年3月期は、旧和歌山銀行との二行合算

業務粗利益・コア業務純益

営業人員を増強し、地域に密着した営業活動に取り組んだ結果、資金利益が増加したほか、役務取引等利益も堅調に増加しました。

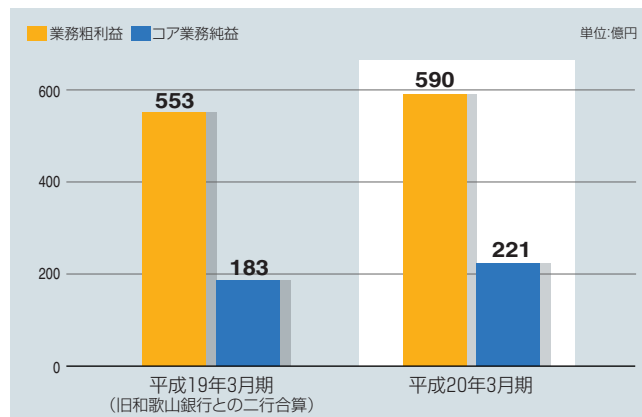
平成20年3月期の業務粗利益は、前期比37億円増加し、590億円となりました。

また、コア業務純益は前期比38億円増加し、221億円となりました。

	平成19年3月期	平成20年3月期	前期比
資金利益	507	517	10
役務取引等利益	64	66	2
その他業務利益	△ 17	6	23
業務粗利益	553	590	37
経費	373	364	△ 9
一般貸倒引当金	△ 14	10	24
業務純益	195	216	21
コア業務純益	183	221	38

単位:億円

※平成19年3月期は、旧和歌山銀行との二行合算



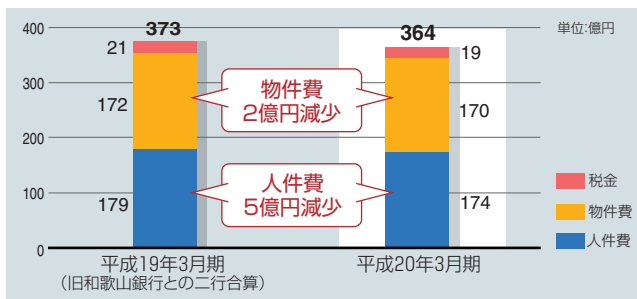
用語解説

業務粗利益とは

預金・貸出金業務や有価証券運用などによる利息収支である「資金利益」、投資信託販売手数料など各種手数料の収支である「役務取引等利益」、債券や外国為替の売買損益などの収支である「その他業務利益」の合計

経費

紀陽銀行と旧和歌山銀行の合併効果により、経費は前期比9億円減少いたしました。



与信コスト

不良債権の最終処理に加え、景況感の変化により与信コストは前期比8億円増加の103億円となりました。

さらに償却債権取立益26億円を含めた、ネット与信コストは前期比22億円増加し、76億円となりました。

	平成19年 3月期	平成20年 3月期	前期比
一般貸倒引当金繰入額	△14	10	24
不良債権処理額	110	92	△18
与信コスト	95	103	8
償却債権取立益	41	26	△15
ネット与信コスト	54	76	22

※平成19年3月期は、旧和歌山銀行との二行合算

配当方針

紀陽ホールディングスの当期の配当につきましては、普通株式1株につき50銭増配し、3円の配当をおこないました。なお、平成21年3月期につきましては第1次中期経営計画の最終年度を迎え、より一層収益力の強化と業務の効率化を進め、計画を着実に遂行することにより普通株式のさらなる配当増額をはかり、年間で4円とする予定です。

業績予想

当社グループの中核となる紀陽銀行においては、第一次中期経営計画の最終年度を迎え、目標達成にむけ更なる営業体制の強化や経費の削減に努め、安定的な収益基盤の確立に努めてまいります。

〈紀陽ホールディングス連結〉

単位: 億円

	平成21年3月期 中間期	平成21年3月期
経常収益	433	868
経常利益	78	167
当期純利益	60	134

〈紀陽銀行単体〉

単位: 億円

	平成21年3月期 中間期	平成21年3月期
経常収益	394	786
コア業務純益	120	236
業務純益	122	226
経常利益	83	174
当期純利益	65	138
不良債権比率	4%台後半	4.5%程度

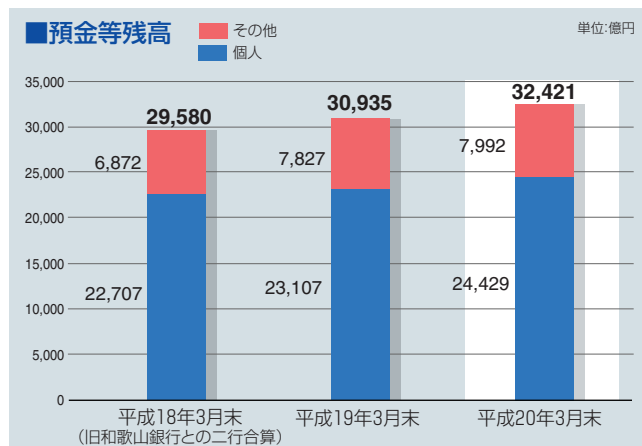
預金等および預かり資産の状況

お客さまの多様なニーズにお応えするため、営業人員の増加や個人のお客さま専用店舗の設置をすすめるなかで、預金等は順調に増加し、預かり資産販売なども堅調に推移いたしました。

預金等

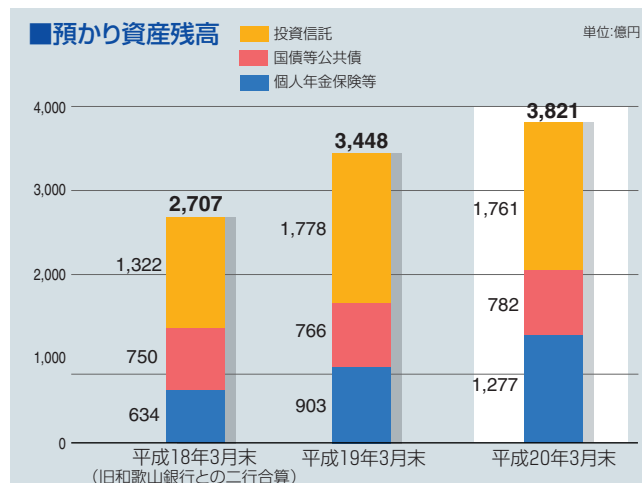
平成20年3月末の預金等残高は、前期比1,486億円増加し、3兆2,421億円となりました。

うち個人預金残高は、前期比1,322億円増加し、2兆4,429億円となりました。



預かり資産

お客さまの資産運用ニーズの多様化にむけ、投資信託、個人年金保険等を中心に販売をすすめてまいりました結果、預かり資産残高は、3,821億円となりました。



※個人年金保険等は販売累計額

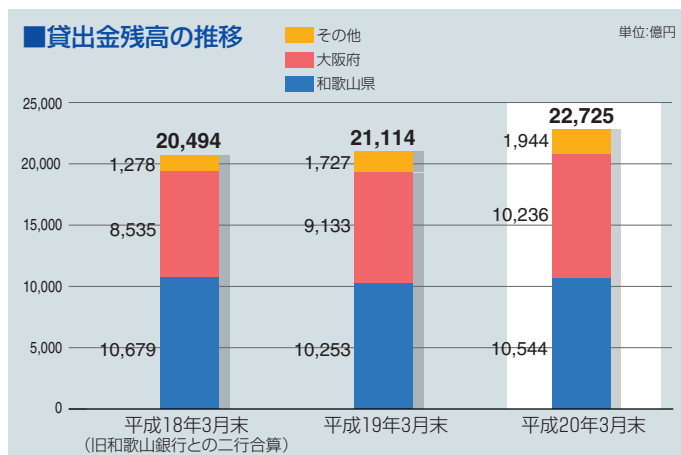
貸出金の状況

中小企業向けの事業性貸出金の増加に向け、より地域に密着した営業活動をおこない、営業体制の強化や事業性取引特化型店舗の設置等をすすめてまいりました。

また、住宅ローンをはじめ個人のお客さまの資金調達ニーズにも積極的にお応えいたしました。

貸出金残高

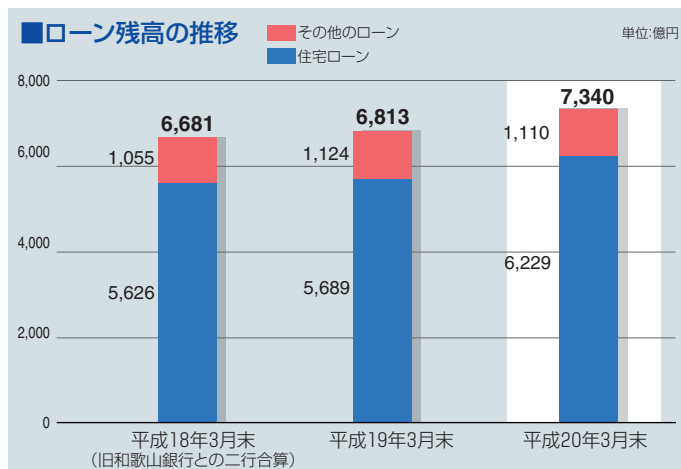
平成20年3月末の貸出金残高は、和歌山県内、大阪府下とも増加し、前期比1,610億円増加の、2兆2,725億円となりました。



ローン残高

ローン残高は前期比526億円増加しました。

このうち、住宅ローン残高は前期比539億円増加しております。



決算ハイライト ～自己資本比率～

自己資本比率

平成20年3月末の紀陽ホールディングス連結の自己資本額は、その他有価証券評価差額等により、自己資本額が前期比12億円減少し、1,784億円となりました。

また、貸出金増強に積極的に取り組んだことなどにより、リスクアセットは前期末比1,229億円増加しました。

この結果、紀陽ホールディングス連結自己資本比率（第二基準*）は、前期比0.93%低下の10.65%となりました。

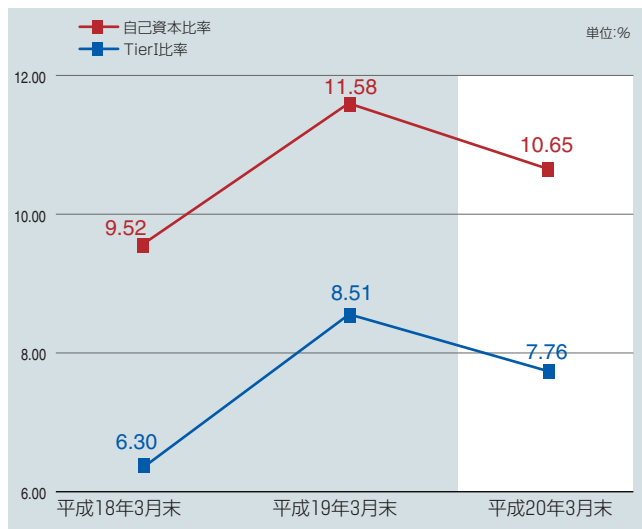
また、紀陽銀行単体の自己資本比率（国内基準*）も、前期比0.54%低下し、10.08%となりました。

※第二基準とは、銀行法で定められている海外営業拠点を持たない銀行持株会社の基準です。国内基準とは、海外営業拠点を有しない銀行の基準です。

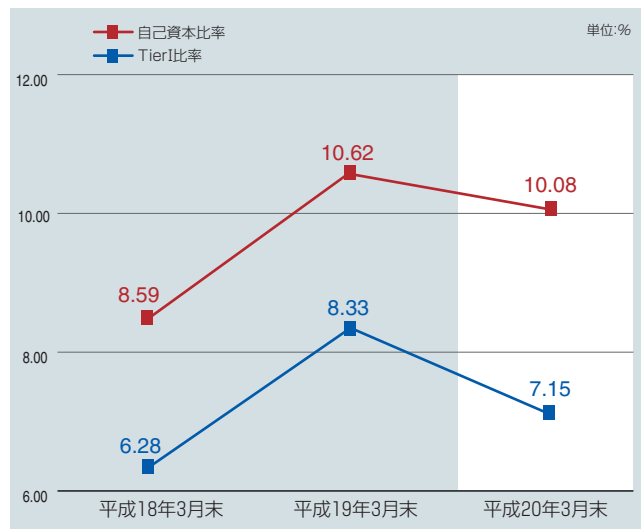
	自己資本比率	自己資本額	自己資本額		リスクアセット
			TierI	TierII	
紀陽ホールディングス 連結	10.65% (△0.93%)	1,784億円 (△12億円)	1,299億円 (△21億円)	484億円 (+7億円)	16,748億円 (+1,229億円)
紀陽銀行 単体	10.08% (△0.54%)	1,678億円 (+38億円)	1,192億円 (△93億円)	486億円 (+7億円)	16,655億円 (+1,217億円)

※（ ）内は平成19年3月末対比

紀陽ホールディングス連結

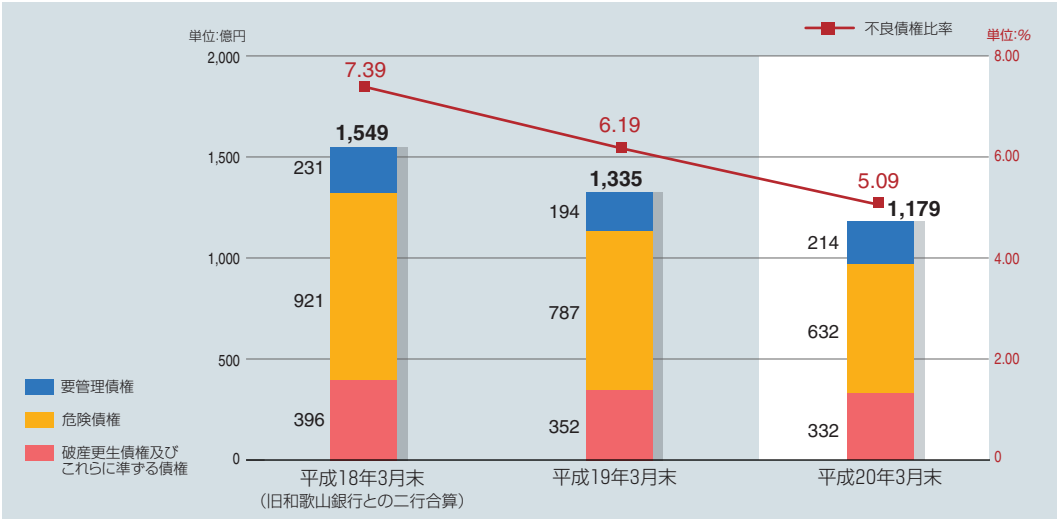


紀陽銀行単体



不良債権（金融再生法開示債権）

第1次中期経営計画の最終年度である平成21年3月期までに不良債権比率を4%台にすることを目標に、事業の再生支援や経営改善支援による債務者区分のランクアップ、不良債権の最終処理などにより不良債権額削減に努めております。この結果、平成20年3月末の不良債権残高は前期比155億円減少し、1,179億円となりました。また、不良債権比率は前期比1.10%低下し、5.09%となりました。



不良債権の保全状況

不良債権総額1,179億円のうち91.3%は担保や引当金などで保全されております。

	債権額 ^(※1)	保全額			保全率
			担保・保証等	引当額	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権 ^(※2)	332	332	312	20	100.0%
危険債権 ^(※3)	632	605	439	165	95.7%
要管理債権 ^(※4)	214	139	66	73	65.1%
合計	1,179	1,078	818	259	91.3%

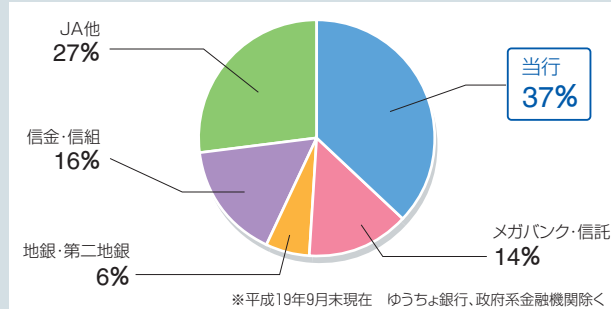
(※1) 貸出金、支払承諾見返、外国為替、銀行保証付私募債、貸付有価証券、仮払金等の合計
(※2) 破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権
(※3) 債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権
(※4) 3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

地域の皆さまとともに～預金、貸出金の状況～

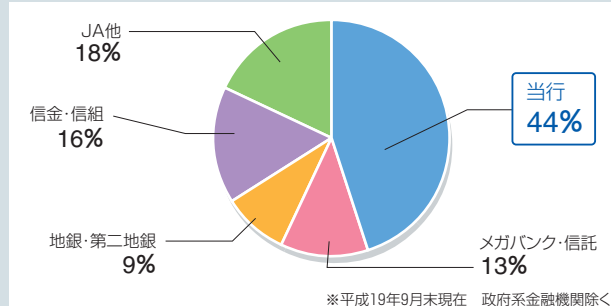
預金・貸出金の和歌山県内シェア

紀陽銀行は和歌山県下に67店舗、大阪府下に34店舗を有し、両府県を主要な営業基盤としています。また、両府県に隣接する奈良県にも2店舗を出店しております。特に和歌山県では預金、貸出金ともにトップシェアをいただいております。地域のリーディングバンクとして、皆さま方のご信頼、ご期待にお応えし、地域の発展に向けて果たすべき役割は従来以上に重要なものであると認識しております。

和歌山県内預金シェア



和歌山県内貸出金シェア



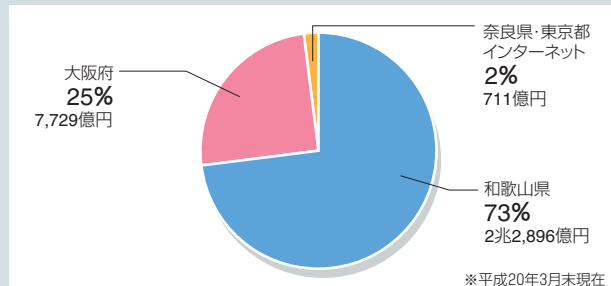
預金・貸出金の地域別構成

地域の皆さまの貯蓄、資産運用に関するニーズにお応えするとともに、企業や個人事業主の皆さまの資金需要に対し、円滑な資金のご提供に努めております。

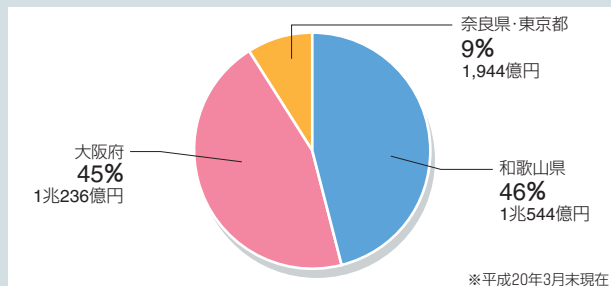
平成20年3月末の総預金残高（譲渡性預金を除く）3兆1,337億円のうち、98%の3兆626億円を和歌山県、大阪府の店舗にてお預かりしております。

貸出金につきましても、和歌山県、大阪府の店舗での貸出金残高は2兆780億円となっており、総貸出金残高の91%を占めております。

預金地域別構成



貸出金地域別構成



中小企業・個人のお客さまへの貸出の状況

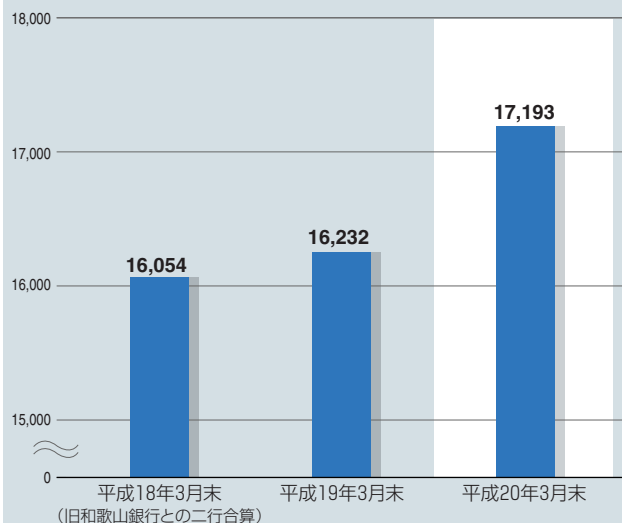
お客さまとの接点強化に向けた営業人員、営業拠点の増強に取り組むなかで、和歌山県、大阪府における中小企業等貸出金残高は、引き続き増加いたしました。

平成20年3月末の中小企業等貸出金残高は、前期比961億円増加し、1兆7,193億円となりました。

※中小企業等貸出金とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、サービス業、小売業および飲食店は5千万円）以下の会社または常用する従業員が300人（ただし、卸売業およびサービス業は100人、小売業および飲食店は50人）以下の会社および個人への貸出金

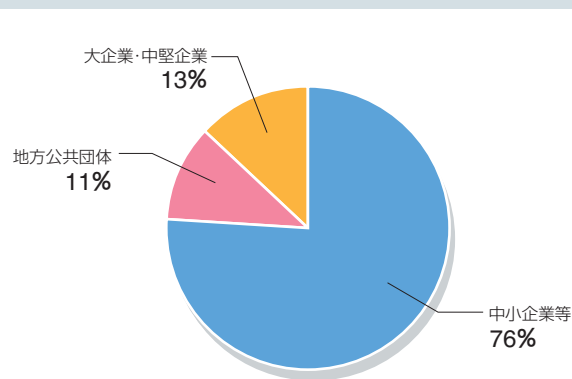
中小企業等貸出金の残高推移

単位: 億円



貸出金2兆2,725億円のうち、76%にあたる1兆7,193億円を中小企業、個人のお客さまにご利用いただいております。

中小企業・個人のお客さまへの融資の状況



※平成20年3月末現在

個人のお客さまへの取り組み

資産運用に関するご相談

預金をはじめ投資信託、個人年金保険、国債などお客さまの多様な資産運用に関するニーズにお応えするため、51カ店に資産運用アドバイザーを配置し、ゆっくりとご相談いただける専用ブースを設置いたしました。

これからも、お客さまの投資経験や資産状況などを十分に配慮し、より安心してお客さまにご満足いただける最適な商品をご紹介します。



紀陽ハートフルプラザ

資産運用に関して、ご納得のいくご相談をしていただくため、個人のお客さま専用の店舗として設置しております。現在、県内では和歌山市、大阪府下では泉大津市に1店舗ずつ出店しておりますが、今後も順次出店を進めていく予定です。



インターネット支店

パソコンで定期預金のお申込を受け付けております。銀行の窓口にお越しいただくことなく、24時間いつでも申込できます。

アドレス: <http://www.kiyobank.co.jp/net/>

各種ローン

お客さまのライフステージにおける様々なニーズにお応えするため、カードローン、マイカーローン、学資ローン、住宅ローンなど各種ローン商品をご用意しております。

また、12カ所の住宅ローンセンターでは専門のスタッフが住宅ローンのご相談やお申込を受け付けており、4カ所は日曜日も営業しております。

■住宅ローンセンター

日曜オープン	●紀陽住宅ローンセンター（本店南館1階）	073(426)7155
日曜オープン	●紀陽二色の浜住宅ローンセンター	072(433)4741
日曜オープン	●紀陽東岸和田住宅ローンセンター（東岸和田支店2階）	072(428)0540
	●紀陽光明池住宅ローンセンター（植屋ビル3階）	0725(56)0221
	●紀陽狭山住宅ローンセンター（狭山支店2階）	072(368)7200
日曜オープン	●紀陽堺住宅ローンセンター（紀陽堺ビル3階）	072(222)9322
	●紀陽藤井寺住宅ローンセンター（藤井寺フコク生命ビル5階）	072(937)5601
	●紀陽西田辺住宅ローンセンター（帝塚山クレバービル2階）	06(6694)9801
	●紀陽堂島住宅ローンセンター（堂島グランドビル5階）	06(6343)1251
	●紀陽鶴見住宅ローンセンター（尾本ビル5階）	06(6934)9600
	●紀陽江坂住宅ローンセンター（太陽生命江坂ビル9階）	06(6380)9701
	●紀陽大和高田住宅ローンセンター（岡本ビル3階）	0745(53)3541

日曜オープン 印は日曜日も営業（午前10時から午後4時まで）しております。

より安全にご利用いただくために

偽造・盗難キャッシュカードによる不正引き出し被害防止のため、指静脈認証方式による生体認証ICキャッシュカードの取扱いを行っております。また、「個人のお客さま向けインターネットバンキング」をより安心してご利用いただくため、携帯電話を利用した「ワンタイムパスワード」^(※)の導入により「本人なりすまし犯罪」等の不正取引を防止することができます。

(※) お客様の携帯画面上に表示された一度限りのパスワードを利用して、インターネットバンキングの本人認証を行います。万一パスワードが不正行為により盗まれたとしても、1分後にはワンタイムパスワードは無効となることから「本人なりすまし」による不正取引など、金融犯罪への対策として、きわめて有効な手段となります。

地域のお客さまの利便性向上

ATMネットワークの充実

従来のローソンATMとの提携に加え、平成19年7月よりセブン銀行との提携を開始いたしました。これにより、全国のセブンイレブンなどに設置されている12,388ヶ所（県内39ヶ所）のセブン銀行ATMでも紀陽銀行のキャッシュカードがご利用いただけることとなりました。

お客さまによりご満足いただくために

紀陽銀行では、地域の皆さまから選ばれ続ける銀行となるために、CS（お客さま満足度）向上を経営の重要課題と位置づけ、全営業店に「ご意見箱」を設置し、お客さまからのご要望やご意見を頂戴しております。

お客さまからいただいたご意見をもとに、これまでに店舗外ATMの新設や稼働時間延長、メンテナンスの実施などの取り組みを行っております。

地域密着型金融の取り組みについて

紀陽銀行では、第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」の基本姿勢のもと、経営課題解決にむけたお手伝いや成長支援、また地域のお客さまの利便性向上にむけた地域密着型金融(※)の推進に取り組んでおります。

【第1次中期経営計画「ハート&ブレイン・アクションプラン」の基本姿勢】

多様かつ高度な
総合金融サービスのご提供

地域経済への貢献

経営基盤の強化

- 法人や個人事業主のお客さまに対し、経営課題やニーズへの対応策をご提供する「課題解決型営業」への取り組み
- 地域のお客さまへのより充実した商品、サービスのご提供と利便性の向上に向けた営業体制の強化

II

地 域 密 着 型 金 融

※金融機関がお客さまとの間で親密な関係を長期間維持することによりお客さまに関する情報を蓄積し、この情報を基に貸出等の金融サービスのご提供を行うことで展開するビジネスモデルのことです。

法人・個人事業主のお客さまへの取り組み

経営相談・コンサルティング

当社グループのコンサルティング機能や情報提供機能を活用し、創業・新事業展開や事業拡大、事業承継などお客さまの経営課題やニーズに対し、様々なご提案や情報のご提供をおこなっております。

また、産(企業)、学(大学等)、官(公的機関)の連携機能を活用し、新たな事業創造に向けた取り組みをご支援しております。

■経営相談・コンサルティング活動の実績

- ビジネスマッチング
(販路・仕入先ご紹介、新分野進出パートナーご紹介、コンサルタントご紹介 等)
- M&A仲介
- 株式公開支援
- 事業承継対策
- 政府系金融機関との協調融資 等

ビジネスマッチングへの取り組み

当社グループネットワークを活用し、地域活性化ならびにビジネスマッチングに積極的に取り組んでおります。その一環として、「食材甲子園」を地域の食品企業に対して紹介することで、地域食材の販路拡大支援や、地域企業の業容拡大・活性化を支援しております。



経営改善のお手伝い

お客さまとの十分なコミュニケーションを通じて、財務内容の改善および適正な事業運営に向けた経営改善計画の策定と実践を本部と営業店が連携してお手伝いしております。

中小企業再生支援協議会、RCC（整理回収機構）などの外部機関や政府系金融機関などとも連携し、紀陽銀行も出資する再生ファンド「くろしお企業支援ファンド」の利用などお客様さまに応じた最適な手法を選びながら、お客さまの抜本的な再生に取り組んでいる事例もあります。

こうした取り組みを通じ、平成20年3月期は35先の債務者区分がランクアップ^(※)いたしました。

※ご融資先を財務内容などにより正常先、要注意先、破綻懸念先、実質破綻先、破綻先の5段階に区分し、経営改善や事業再生などにより上位のランクに引き上げること

円滑な資金のご提供

中小企業や個人事業主のお客さまに対して、事業融資にお応えする専用窓口として新たなスタイルの営業拠点である「ビジネスサポートセンター」を4カ所（本店、田辺、岸和田、堺）に設置し、専門スタッフが電話やFAXで融資のご相談を受け付けております。

今後も、お客さまの事業に即した資金を円滑にご提供するため、融資手法の多様化に取り組んでまいります。

地域応援団<プラス>	・対象は業歴3年以上の法人、個人事業主 ・最高3,000万円(個人事業主の方は1,000万円) ・担保は原則不要 ・第三者保証人不要
スーパー・セーブC	・対象は業歴2年以上の法人、個人事業主 ・最高500万円 ・担保不要 ・保証人不要(法人は代表者の方のみの保証) ・アイフル株式会社の保証

■ビジネスサポートセンター

●紀陽ビジネスサポートセンター（本店自動サービスコーナー2階）	073(426)7117
●紀陽田辺ビジネスサポートセンター（田辺支店北隣り）	0120(331)209
●紀陽岸和田ビジネスサポートセンター（JR東岸和田駅前）	0120(221)603
●紀陽堺ビジネスサポートセンター（紀陽堺ビル4階）	0120(191)560

地域・社会貢献活動への取り組み

環境保全・美化活動

地域社会の一員として、私どもの活動基盤である地域の環境保全に向けた様々な取り組みを行っております。

和歌山県「企業の森」事業

森林保全活動を通じ地域の環境保護に貢献するため、役職員が伐採後の森林への広葉樹の植樹や下草刈り活動を行っております。

平成18年の取り組み開始以降、これまでに約3,000本の植樹を実施しました。本活動により、年間約5トンの二酸化炭素削減効果があるといわれており、森林保全活動を通じて地域の環境保護に貢献することを目指しております。



小さな親切運動

紀陽銀行「小さな親切の会」では、地域の清掃活動に参加するなど環境美化に取り組んでおります。

紀陽文化財団

(財)紀陽文化財団では、地域の皆さまに音楽や美術などに接していただく機会をご提供するため、クラシックコンサートの開催や和歌山県立近代美術館・博物館への無料ご招待を実施しております。

これまで多くの方にご参加いただいておりますが、今後も地域の方々が必要とされる財団を目指して、活動を充実させてまいります。



地域の安全のために

■「子ども110番」活動

地域の子どもたちを狙った犯罪を未然に防止するため、和歌山市内の住宅地に立地し通学路に近い11カ店で「子ども110番」活動への取り組みを行っております。

■全営業店へのAED設置

地域の皆さまに万一救命措置が必要となった場合に備えて、全営業店のATMコーナーや住宅ローンセンターなど115カ所にAED(自動体外式除細動器)を設置いたしました。

地域行事への参加・各種大会への協賛

地域社会の一員として、「紀州おどり」への参加や「和歌浦ベイマラソン With JAZZ」の運営ボランティア派遣、「和歌山県綱引選手権大会」や「少年野球大会」などに協賛しております。各種行事の参加を通じて、地域の皆さまとの交流を深めております。

営業エリア・店舗ネットワーク

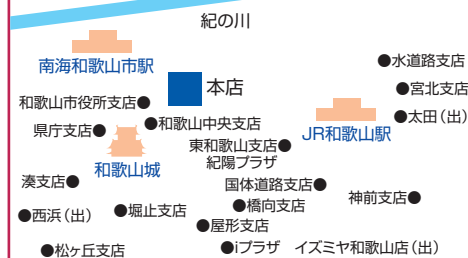
紀陽銀行は、主要営業エリアである和歌山県、大阪府を中心に104店舗を設置し、両府県にまたがる店舗ネットワークを展開しております。

また、セブン銀行、ローソンとの提携により、全国のセブンイレブンやローソンに設置されたATMで紀陽銀行のキャッシュカードがご利用いただけます。

	店舗数	店舗外ATM
和歌山県	67	116
大阪府	34	30
奈良県	2	1
東京都、三重県	1	1
合計	104	148

※このほか、資産運用に関するコンサルティングデスク「紀陽プラザ」、インストアランチ「プラザ イズミヤ和歌山店」、外貨両替専門の「関西国際空港出張所」、住宅ローンセンター(12ヶ所)、ビジネスサポートセンター(4ヶ所)、インターネット支店を開設しております。

和歌山市中心部



紀陽ホールディングス（連結）

第3期末 連結貸借対照表（平成20年3月31日現在）

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
（資産の部）		（負債の部）	
現金預け金	67,332	預金	3,124,304
コールローン及び買入手形	20,751	譲渡性預金	102,926
債券貸借取引支払保証金	103,081	コールマネー及び売渡手形	2,304
買入金銭債権	6,395	債券貸借取引受入担保金	18,287
商品有価証券	2,860	借入金	22,466
有価証券	923,880	外国為替	62
貸出金	2,264,622	社債	16,000
外国為替	1,512	その他負債	52,940
その他資産	49,808	退職給付引当金	1,621
有形固定資産	40,079	役員退職慰労引当金	84
無形固定資産	16,924	預金払戻損失引当金	552
繰延税金資産	32,049	その他の偶発損失引当金	77
支払承諾見返	25,355	支払承諾	25,355
貸倒引当金	△ 41,622	負債の部合計	3,366,982
		（純資産の部）	
		資本金	58,350
		資本剰余金	64,632
		利益剰余金	35,662
		自己株式	△ 111
		株主資本合計	158,533
		その他有価証券評価差額金	△ 14,317
		繰延ヘッジ損益	△ 0
		評価・換算差額等合計	△ 14,318
		少数株主持分	1,834
		純資産の部合計	146,049
資産の部合計	3,513,031	負債及び純資産の部合計	3,513,031

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第3期 連結損益計算書（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	89,558
資金運用収益	63,393
（うち貸出金利息）	（ 49,699 ）
（うち有価証券利息配当金）	（ 12,317 ）
役務取引等収益	13,073
その他業務収益	10,001
その他経常収益	3,089
経常費用	78,941
資金調達費用	11,389
（うち預金利息）	（ 9,113 ）
役務取引等費用	4,038
その他業務費用	8,232
営業経費	38,994
その他経常費用	16,285
経常利益	10,617
特別利益	3,186
特別損失	784
税金等調整前当期純利益	13,019
法人税、住民税及び事業税	819
法人税等調整額	△ 1,231
少数株主利益	72
当期純利益	13,359

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第3期 連結株主資本等変動計算書（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

単位:百万円

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	58,350	77,128	24,398	△ 12,566	147,309	5,545	△ 3	5,542	1,792	154,644
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 2,095		△ 2,095					△ 2,095
当期純利益			13,359		13,359					13,359
自己株式の取得				△ 23	△ 23					△ 23
自己株式の処分		△ 1		6	4					4
自己株式の消却		△ 12,494		12,494	—					—
連結子会社等の持分変動等に伴う 自己株式の増減				△ 21	△ 21					△ 21
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						△ 19,863	2	△ 19,860	41	△ 19,818
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 12,495	11,264	12,455	11,223	△ 19,863	2	△ 19,860	41	△ 8,595
平成20年3月31日残高	58,350	64,632	35,662	△ 111	158,533	△ 14,317	△ 0	△ 14,318	1,834	146,049

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

紀陽ホールディングス(連結)

第3期 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益	13,019
減価償却費	5,048
減損損失	173
のれん償却額	1,679
負ののれん償却額	△ 24
貸倒引当金の増減(△)額	△ 4,278
退職給付引当金の増減(△)額	△ 1,467
役員退職慰労引当金の増減(△)額	84
預金払戻損失引当金の増減(△)額	552
その他の偶発損失引当金の増減(△)額	77
資金運用収益	△ 63,393
資金調達費用	11,389
有価証券関係損益(△)	2,040
為替差損益(△)	1,356
固定資産処分損益(△)	67
商品有価証券の純増(△)減	10,052
貸出金の純増(△)減	△ 161,178
預金の純増減(△)	135,611
譲渡性預金の純増減(△)	16,098
コールローン等の純増(△)減	76,031
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	40,985
コールマネー等の純増減(△)	2,274
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	13,959
外国為替(資産)の純増(△)減	713
外国為替(負債)の純増減(△)	42
資金運用による収入	64,841
資金調達による支出	△ 8,163
その他	△ 3,494
小 計	154,101
法人税等の支払額	△ 1,140
営業活動によるキャッシュ・フロー	152,961
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△ 564,610
有価証券の売却による収入	348,765
有価証券の償還による収入	76,213
有形固定資産の取得による支出	△ 2,213
有形固定資産の売却による収入	50
無形固定資産の取得による支出	△ 1,877
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 143,672
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	△ 2,095
少数株主への配当金の支払額	△ 4
自己株式の取得による支出	△ 23
自己株式の売却による収入	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,118
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 63
V. 現金及び現金同等物の増減(△)額	7,107
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	56,225
VII. 現金及び現金同等物の期末残高	63,332

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

役員一覧

(平成20年6月27日現在)

株式会社 紀陽ホールディングス

取締役社長(代表取締役)	片 山 博 臣
専務取締役	古 出 哲 彦
常務取締役	瀧 川 千 秋
常務取締役	米 坂 享 享
取締役	阪 本 彰 央
取締役(社外取締役)	水 野 八 朗
監査役(常勤)	羽 山 喬 喬
監査役(常勤)	玉 井 享 享
監査役(非常勤・社外監査役)	松 川 雅 典
監査役(非常勤・社外監査役)	増 尾 穰 穰
監査役(非常勤・社外監査役)	大 平 勝 之

株式会社 紀陽銀行

取締役頭取(代表取締役)	片 山 博 臣
専務取締役	古 出 哲 彦
常務取締役	瀧 川 千 秋
常務取締役	雑 賀 均 均
常務取締役	米 坂 享 享
取締役	泉 清 映 映
取締役	松 岡 靖 之 之
取締役	上 野 隆 司 司
取締役	森 川 保 彦 彦
取締役	成 田 幸 夫 夫
監査役(常勤)	羽 山 喬 喬
監査役(常勤)	玉 井 享 享
監査役(非常勤・社外監査役)	松 川 雅 典
監査役(非常勤・社外監査役)	増 尾 穰 穰
監査役(非常勤・社外監査役)	大 平 勝 之

■連結範囲および持分法の適用に関する事項

連結子会社は9社、持分法適用会社は0社であります。

連結子会社	・株式会社紀陽銀行	・紀陽リース・キャピタル株式会社
	・紀陽情報システム株式会社	・株式会社紀陽カード
	・紀陽ビジネスサービス株式会社	・株式会社紀陽カードディーシー
	・阪和信用保証株式会社	・和歌山銀カード株式会社
	・紀陽ビジネスファイナンス株式会社	

紀陽銀行(単体)

第198期末 貸借対照表 (平成20年3月31日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	67,108	預金	3,133,761
コールローン	20,751	譲渡性預金	108,426
債券貸借取引支払保証金	103,081	コールマネー	2,304
買入金銭債権	6,395	債券貸借取引受入担保金	18,287
商品有価証券	2,860	借入金	22,466
有価証券	925,002	外国為替	62
貸出金	2,272,500	社債	16,000
外国為替	1,512	その他負債	43,824
その他資産	42,117	退職給付引当金	1,596
有形固定資産	34,297	役員退職慰労引当金	84
無形固定資産	2,703	預金払戻損失引当金	552
繰延税金資産	31,145	その他の偶発損失引当金	77
支払承諾見返	25,324	再評価に係る繰延税金負債	230
貸倒引当金	△ 38,793	支払承諾	25,324
		負債の部合計	3,372,998
		(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	32,357
		資本準備金	22,259
		その他資本剰余金	10,097
		利益剰余金	25,057
		利益準備金	2,757
		その他利益剰余金	22,299
		繰越利益剰余金	22,299
		株主資本合計	137,511
		その他有価証券評価差額金	△ 14,843
		繰延ヘッジ損益	△ 0
		土地再評価差額金	340
		評価・換算差額等合計	△ 14,504
		純資産の部合計	123,007
資産の部合計	3,496,006	負債及び純資産の部合計	3,496,006

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第198期 損益計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	81,397
資金運用収益	63,191
うち貸出金利息	(49,345)
うち有価証券利息配当金	(12,469)
役務取引等収益	11,093
その他業務収益	4,035
その他経常収益	3,077
経常費用	69,746
資金調達費用	11,454
うち預金利息	(9,131)
役務取引等費用	4,432
その他業務費用	3,369
営業経費	35,765
その他経常費用	14,724
経常利益	11,651
特別利益	2,699
特別損失	6,002
税引前当期純利益	8,348
法人税、住民税及び事業税	91
法人税等調整額	△ 552
当期純利益	8,809

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第198期 株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

単位:百万円

	株主資本							評価・換算差額等				純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金		評価・換算 差額等合計
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計						
平成19年3月31日残高	80,096	22,259	10,097	32,357	2,279	16,281	18,561	131,015	5,074	△3	416	5,487	136,502
事業年度中の変動額													
剰余金の配当					477	△2,867	△2,389	△2,389					△2,389
当期純利益						8,809	8,809	8,809					8,809
土地再評価差額金の取崩						75	75	75					75
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）									△19,917	2	△75	△19,991	△19,991
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	477	6,018	6,496	6,496	△19,917	2	△75	△19,991	△13,495
平成20年3月31日残高	80,096	22,259	10,097	32,357	2,757	22,299	25,057	137,511	△14,843	△0	340	△14,504	123,007

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■発行済株式総数

普通株式	739,425,155株
第一種優先株式	266,000株
第二種優先株式	4,827,500株
第4回第一種優先株式	45,000,000株

■株主総数

普通株式	28,543名
第一種優先株式	5名
第二種優先株式	565名
第4回第一種優先株式	1名(株式会社整理回収機構)

■配当方針

利益配分につきましては、銀行持株会社の公共性に鑑み、経営の健全性を確保するための適正な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を実現することを基本方針としています。

平成20年3月期につきましては、普通株式1株につき3円、その他の優先株式についてはそれぞれ所定の優先配当金をお支払いいたしました。

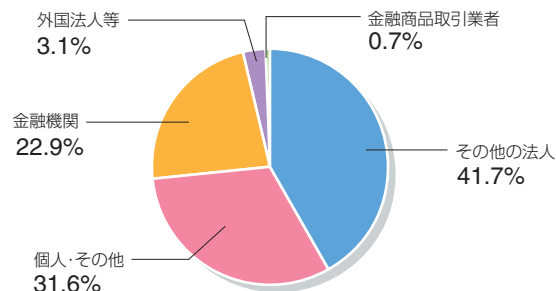
■株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

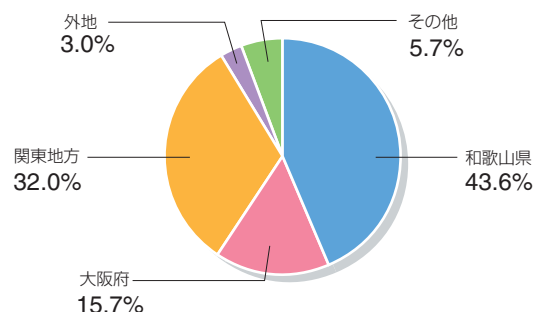
■株式事務取扱場所・取次所

〈事務取扱場所〉大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
電話0120-094-777(通話料無料)
〈取次所〉三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店

■所有者別株式分布(平成20年3月末)



■地域別株式分布状況(平成20年3月末)



単元未満株式をお持ちの皆さまへ

1単元(1,000株)未満の株式を保有されている株主さまは、保有株式の買い取り請求または単元株への買い増し請求をしていただくことができます。

詳細につきましては、上記〈事務取扱場所〉または〈取次所〉までお問い合わせ下さい。

(追記) なお、お手続きに必要な書類等については、当社ホームページより上記株式事務取扱場所のホームページにお入りいただき、検索することもできます。



株式会社 紀陽ホールディングス

和歌山市本町1丁目35番地

<http://www.kyfg.com/>

株式会社 紀陽銀行

和歌山市本町1丁目35番地

<http://www.kiyobank.co.jp/>



平成20年6月発行

株式会社 紀陽ホールディングス グループ企画部 広報グループ

〒640-8656 和歌山市本町1丁目35番地 TEL.073-426-7133